




学位論文審査の結果の要旨

審査区分 ① 課・論	第 6 1 9 号	氏 名	小 林 俊 輔
審 査 委 員 会 委 員		主査氏名	今井 浩光 
		副査氏名	山岡 吉生 
		副査氏名	前田 知己 
<p>論文題目 The Relationship Between Hyperthymic Temperament, Self-Directedness, and Self-Transcendence in Medical Students and Staff Members (医療従事者および医学生における発揚気質、自己志向性および自己超越性との関連性)</p> <p>論文掲載雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences</p> <p>論文要旨 発揚気質は、双極性障害における危険因子とされる一方、高い精神的健康や幸福感を維持し、自殺等様々な問題行動を抑制する因子ともされる。先行研究において発揚気質は自己志向性及び自己超越性との関連が示唆されるが、これらの研究は単相関による分析であり、寄与因子が十分には考慮されない。本研究では、発揚気質の特徴を検討するために、TCI との関連性をもとに検討をし、発揚気質が自己志向性及び自己超越性と関連を有するかにつき検討を行った。 本研究グループが先に実施した研究の被験者 111 名（医療従事者及び医学生、男性 67 名、女性 44 名、平均年齢 26.3 歳）のデータを解析対象とした。TEMPS -A 及び TCI の質問紙による気質の評価を行い、精神疾患の既往や健康状態のスクリーニングは、MINI によって評価した。ピアソンの相関係数を用いて、被験者の属性、TEMPS- A 及び TCI の下位尺度との関連性について解析した。更に、発揚気質と自己志向性及び自己超越性との関連性を評価するため、強制投入法による重回帰分析により諸因子の調整前と調整後の関連性について検討を行った。 相関分析の結果、発揚気質は、焦燥気質、新奇性追求、報酬依存、固執、自己志向性、自己超越性と正の有意な相関を示し、抑うつ気質、損害回避得点と負の相関を示した。発揚気質を従属変数にし、自己志向性を独立変数から除外した重回帰分析の結果、焦燥気質、自己超越性と有意な正の相関が、損害回避とは有意な負の相関を示し、全ての変数を投入した場合、焦燥気質及び自己超越性と有意な正の相関が、損害回避との間に有意な負の相関が見られた。発揚気質を従属変数にし、自己超越性を独立変数から除外した場合、焦燥気質と正の相関が、損害回避と有意な負の相関が見られた。全ての変数を投入した場合、焦燥気質、自己超越性と有意な正の相関が、損害回避と有意な負の相関が見られた。 本研究により、発揚気質は自己超越性と関連を有し、一方自己志向性とは有意な関連が認められないことが示唆された。また発揚気質は利己的かつ無謀な傾向を持ち、自己超越性は利他的であり、協調的思考を持つ可能性があることが示唆された。 本研究は発揚気質について、TCI の性格評価尺度である自己志向性及び自己超越性との関連をさらに協調性も含めて詳細に検討し、自己超越性との関連を明らかにしたものである。その価値を考慮し、審査委員の合議により本論文は学位論文に値するものと判定した。</p>			

学 位 論 文 要 旨

氏名 小林 俊 輔

論 文 題 目

The Relationship Between Hyperthymic Temperament, Self-Directedness, and Self-Transcendence
in Medical Students and Staff Members

(医療従事者および医学生における発揚気質、自己志向性および自己超越性との関連性)

要 旨

ア. 緒言

発揚気質は、双極性障害における危険因子としてよく知られている。しかしながら、いくつかの先行研究においては、高い精神的健康や幸福感を維持し、自殺等様々な問題行動を抑制する因子と報告されており、注目されている。本研究では、発揚気質の特徴を検討するために、TCIとの関連性をもとに検討をした。

イ. 研究対象および方法

111名の健康な被験者(男性=67名、女性=44名、平均年齢26.3歳を)対象とした。対象者に、インフォームドコンセントを行い、同意が得られた後に、TEMPS-AならびにTCIの質問紙調査を行った。精神疾患の既往や健康状態のスクリーニングは、MINIによって評価した。

統計解析について、ピアソンの相関係数を用いて、被験者の属性、TEMPS- A 及び TCI の下位尺度との関連性について検討をした。更に、発揚気質と自己志向性及び自己超越性との関連性を検討するため、重回帰分析を用いて関連因子の調整前と調整後の関連性のパターンについて検討をした。本研究は、大分大学医学部倫理委員会の承認を受け、調査・研究を行った。

ウ...結果

相関分析の結果、発揚気質は、焦燥気質、新奇性追求、報酬依存、固執、自己志向性、自己超越性と正の有意な相関を示し、抑うつ気質、損害回避得点と負の相関を示した。自己志向性は、発揚気質、固執、協調思考と正の有意な相関を示し、抑うつ気質、循環気質、焦燥気質、不安気質、損害回避、抑うつ(HDRS)と負の相関を示した。自己超越性は、循環気質、発揚気質、焦燥気質、新奇性追求、固執、報酬依存、協調思考と正の有意な相関を示し、損害回避と負の相関を示した。

更に、発揚気質を従属変数にし、自己志向性を独立変数から除外した重回帰分析の結果、焦燥気質、自己超越性と有意な正の相関が、損害回避とは有意な負の相関を示し、全ての変数を投入した場合、焦燥気質及び自己超越性と有意な正の相関が、損害回避との間に有意な負の相関が見られた。

自己志向性を従属変数にし、発揚気質を独立変数から除外した場合、固執、協調思考と有意な正の相関が、損害回避と負の有意な相関が見られた。全ての変数を投入した場合、協調思考と有意な正の相関が、損害回避と有意な負の相関が見られた。

発揚気質を従属変数にし、自己超越性を独立変数から除外した場合、焦燥気質と正の相関が、損害回避と有意な負の相関関連性が見られた。全ての変数を投入した場合、焦燥気質、自己超越性と有意なせいとの相関が、損害回避と有意な負の相関が見られた。

自己超越性を従属変数にし、発揚気質を独立変数から除外した場合、報酬依存と協調思考と有意な正の相関が、損害回避と有意な負の相関が見られた。全ての変数を投入した場合、発揚気質と協調思考に有意な正の相関を示した。

エ...考察と結語

発揚気質は、自己志向性とは有意な関係は見られなかったが、自己超越性と有意な関係性が見られた。更に、発揚気質は、利己的でかつ無謀な傾向を持ち、自己超越性は、利他的であり、協調的思考を持つ可能性があることが示唆された。